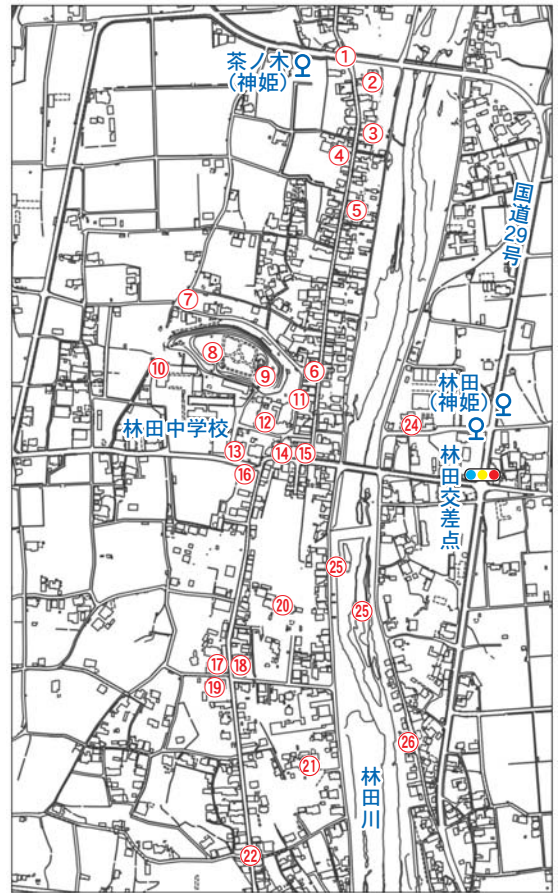


## 『林田陣屋』をたずねて



日本輿地郡縣里部播磨国揖東郡林田地圖  
 (国立公文書館蔵)



元和3年(1617)摂津1万石の大名であった建部政長が播磨国揖東郡内25ヶ村1万石で転封、林田構村の聖岡(窪山)に藩主屋敷を設け、林田陣屋(藩主屋敷・評定所や藩蔵など藩施設・家中町(武家地)・町屋など総体を指す)を構築した。藩主屋敷は藩封菅館、東御殿などと称されている。建部家は近江国建部庄(東近江市)を苗字の地とし政長の祖父寿徳は六角氏次いで信長、賤ヶ岳の戦い後は秀吉に仕え尼崎で本領500石で豊臣家蔵入地3万石の代官となった。政長の父光重は秀吉の小姓次いで秀頼の近習だったが疫病で死没、政長8歳で家督を相続、大坂の役で池田家の支援のもと徳川方に属して要衝尼崎を守備した功により本領500石から一躍摂津1万石となった。左に寛永元年(1624)11月11日付け建部政長知行宛行状の花押(個人蔵)、建部家家紋の「市女笠」紋と池田家ゆかりの「向い蝶菱」紋と「三蝶」紋(船印・帆幕印、図下)(文化武鑑)を掲げる。



### ① 陣屋北口跡

因幡街道(姫路街道)沿いの両側町(林田ノ町)北端に設置されていた。(P, 1 宝暦5年(1755)「日本輿地郡県郷里部播磨国揖東郡林田地図」(国立公文書館蔵、以下「林田地図」と略)参照)

### ② 地蔵堂

「林田地図」に林田ノ町(新町)北端東側に記す、享保9年(1724)地蔵坐像、境内に粟嶋社、五輪塔残欠、葛木水分神跡碑がある。

### ③ 大師堂

林田川堤防に接して立地

### ④ 妙善寺

真宗大谷派、永正10年(1513)揖東郡下野村(たつの市新宮町)に了正が建立、享保15年(1730)4代藩主建部政周が現在地に移し西派から東派に転派した。境内に十王堂があり藩主下賜の十王絵巻を伝える。14代住職宗泰は藩校教授石野黄裳や河野鉄兜と親交を結び本堂に寺子屋を開いた。「林田地図」では聖岡北側武家地より北、町屋西側一帯を境内地に描く。

### ⑤ 稲荷神社(白玉稲荷神社)

「林田地図」に林田ノ町東側に記され、旧無格社、祭神宇賀魂神。境内に松尾社、庚神社、文化13年(1816)常磐若中・天保6年(1835)竜野連建立の常夜燈がある、因幡街道に面する西側地はもと町屋とみられ余興場と庚申堂がある。

### ⑥ 祝田神社鳥居

「林田地図」で聖岡北側武家地の南側の道が外堀東の土堤北端に突き当たる辺り。この道は明治に至り因幡街道につながり明治33年(1900)祝田神社の鳥居、同35年常夜燈一対建立。

### ⑦ 祝田神社御旅所

### ⑧ 聖岡

陣屋の主郭、「林田地図」は周囲に堀、東西に土堤(土塁)、南側堀外に四足門、堀内に黒門、山上に藩主屋敷の藩封営館(3代藩主政字建立の鴨池西側の発興亭(西御殿、西屋敷)に対し東御殿、東屋敷とも称される)がみえる。聖岡は窪山、御殿山ともいい建部氏入封以前は構三木家、圓福寺、聖神社があった。室町時代の窪山城跡という。聖岡は天保10年(1839)頃の「林田八景」の春望。

### ⑨ 建部神社

文化9年(1812)8代藩主を襲封した政醇は翌年初入部し藩祖政長を祀る社殿を聖岡山上東部に建立、明治12年(1879)政長神を祀る建部神社となり無格社(兵庫県神社誌附録)とされた。政醇は藩祖功績を記す西池碑の建立、林田八景画讃や林田之図等の作成にも寄与した。なお「林田地図」は聖岡に鳥居と社殿らしきものを描き建部神社建立以前の稲荷社とみられる。

参道に明治19年(1886)旧林田藩卒栄統社中建立の常夜燈一対、林田藩士族授産団体「立礎社」が知られるが栄統社は卒族(旧徒士)授産団体とみられる。河野鉄兜先生碑は紀元二千六百年記念建設。

### ⑩ 陣屋西門跡

「林田地図」に聖岡の西側土堤南端と中郭西側土堤北端の間に門と門内に番所が設けられており家老屋敷等上級武家地のある中郭の西側出入口。



陣屋北口跡



大師堂



地蔵堂と粟嶋神社(左)



妙善寺本堂と十王堂



白玉稲荷神社



祝田神社御旅所



祝田神社鳥居



建部神社



聖岡南東部の石垣と堀跡



### ⑪ 塩阜神水碑と子爵脇坂安之歌碑

「播磨国風土記」林田里条「塩阜」の南に海水と往来する塩水を記す。平安時代に石清水八幡から林田八幡に勧請する際、小烏帽子三十六人衆がここで斎戒沐浴したといい、八幡神社と祝田神社の秋季例祭で神事を行う。歌碑は龍野藩主後裔子爵脇坂安之(1876-1939)の詠歌。



塩阜神水と歌碑(左)

### ⑫ 段家住宅

林田の歴史文化の中心に立地し貴重な景観要素として平成27年(2015)に姫路市都市景観重要建築物等第44号に指定、大正12年(1923)頃、間口十二間、奥行六間の大規模な主屋等の建物を現たつの市新宮町から現在地に移築。大正13年医院開業、敷地土堀に濃紺の釉葉で焼成した瓦を使用、南面道路は段家私道。



段家住宅

### ⑬ 敬業館講堂

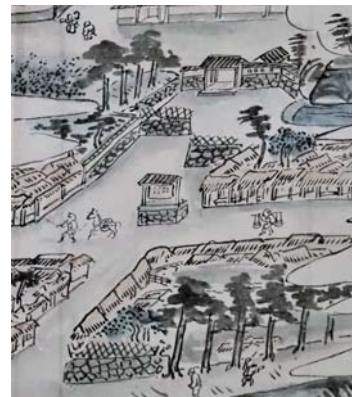
姫路市指定重要文化財、県内唯一の藩校遺構。林田藩校敬業館は7代藩主政賢が寛政6年(1794)に創設、「林田地図」の牢舎の地に講堂・聖廟・練武場・文庫・学寮等を建築、文久に至り火災に遭うも文久3年(1863)藩会計真喜多廉之助(北条謙)らの尽力で再建されたという。式台玄関上に松平定信揮毫の扁額、堂内に寛政6年(1794)紀正毅(近江宮川藩主堀田正毅)の「林田建学記」扁額と寛政12年(1800)藩主政賢の「示」(校訓)扁額を掲げる。明治以降は役場、小学校に利用され明治35年(1902)講堂以外の建物解体、講堂は林田村役場として昭和38年まで使用、昭和54年に原状復旧。



敬業館講堂

### ⑭ 陣屋町口門跡

陣屋中郭の東側出入口、「林田地図」は外堀南端から中郭東側土堤北端との間に門と番所を描く。文化10年(1813)頃の「播州林田之図」(兵庫県立歴史博物館蔵、以下「林田之図」と略)は因幡街道に向かって開かれた町口門と門内の番所屋根、門前の虎口、札の辻の高札を描く。



播州林田之図(兵庫県立歴史博物館蔵)町口門と札の辻(画面右が北)

### ⑮ 高札場(札の辻)跡と道標、林田村道路元標

札の辻跡の北西隅に道標と大正時代の林田村道路元標がある。道標は摩耗が激しいが正面に「右因州 すぐ金ひら」とある。道路元標は大正8年(1919)道路法施行令に基づき各市町村に1個ずつ設置された。

### ⑯ 評定所跡

大手筋に面して設置された藩の政庁

### ⑰ 三木家住宅(通称:林田大庄屋旧三木家住宅)

兵庫県指定重要文化財「三木家住宅 附古絵図6枚」、主屋1棟・主屋附属屋3棟(以上1棟扱い)・長屋門長屋2棟・土蔵(内蔵米蔵新蔵)3棟、計6棟指定。主屋は少なくとも延享3年(1746)以前、当地移転時の建築とも考えられる大規模農家形式で桁行12間半、梁間6間半、入母屋造茅葺・棟本瓦葺煙出付き・四面庇本瓦葺。「林田地図」に南ノ門(大手口門)西側に三木弥兵衛邸を描き、「林田之図」は同じく「構 三木三郎左衛門 御下高一万石百性也」と記し御成門も描く。大庄屋三木家は伊予河野氏の出身で室町時代に播磨で赤松氏に仕えたといい



三木家住宅主屋南面

戦国時代には英賀本徳寺内町の有力町衆(英賀城主と称される)であったが秀吉の英賀攻め(1580)で三木定通は林田窪山城跡(聖岡)に居館を構え「構三木家」初代となった。2代通貫は建部政長入封に際し聖岡の麓に屋敷を移し大庄屋に任じられ3代定久のとき現在地に屋敷を構えたという。藩の扶持があり苗字帯刀であったが、天明7年(1787)林田藩百姓一揆に際し岡山藩忍びの者の注進状に「林田大手口久保村二居申す三木弥兵衛」(姫路市史第十巻)と記し南郭は武家地を配する家中町だが久保村(構村)扱いでもあった。

### ⑱ 陣屋南ノ門(大手口)跡

「林田地図」に大手筋南端に三木弥兵衛邸から掛下勘八家北端を塞ぐ桁型の南ノ門(大手口)と門内番所を記し「林田之図」にも描かれている。藩主参勤は大手口を出て東進しエノキや松並木だったという林田川沿いの藩領を南下、筒井村で野部村に渡河し美作道を追分村から姫路藩領石倉に進んだとみられる。

### ⑲ 郷蔵跡

「林田地図」に南郭の北端に三木家と郷蔵を記す。郷蔵は一般的に備荒貯蓄倉庫をさすが「林田之図」は白壁の土蔵を幾棟も描いていることから郷蔵は御蔵のことであり藩蔵と考えられる。藩蔵から東に林田川河原に至った地点は船積み下ろし場とみられる。

### ⑳ 済水寺

臨済宗妙心寺派、享保11年(1726)大庄屋三木重郎右衛門が祖先祭祀のため盤珪禅師を開基として自肯庵を建立、藩主祖先祭祀を行うため宝暦14年(1764)本堂を建立(鬼瓦銘)し済水禅寺と改称、現庫裡の南側に旧本堂礎石がある。山門は林田の名工といわれる烏長兵衛の子小野木国兵衛作といい天明元年(1781)棟札が遺り旧位置は地蔵堂の北側に礎石を遺す。明和元年(1764)林田に没した6代藩主長教の茶毘所として寛量院殿茶毘所之塔が立つ。地蔵堂石燈籠一対は弘化3年(1846)。

### ㉑ 寶塔寺

日蓮宗、享保年間(1716-36)に藩老臣掛下勘左衛門が龍野常照寺の日瑞上人を招き建立、宝暦5年「林田地図」に陣屋南郭東側土堤の東、林田川河畔に「常照寺ノ庵」を記す。宝暦9年(1759)4世智寛上人が5代藩主政民の病氣平癒祈願の功により林田藩祈願寺となり寶塔寺と称し、一の家老長野家や老臣が日蓮宗に改宗したという。境内の番神堂は延享2年(1745)建立、嘉永2年(1849)再建という。天保2年(1831)と文久4年(1864)の題目塔や五輪塔残欠がある。本堂は大正4年(1915)焼失、現本堂は旧藩土橋本邸を移築した仮本堂という。

### ㉒ 陣屋南口跡

「林田地図」に陣屋南郭の南端に記し当初は木戸があったという。南郭は東西に土堤を配し藩蔵を北端に置くので警固のため武家地を配している。

### ㉓ 圓福寺

浄土真宗本願寺派、永和年間(1375-79)赤松一族永良三郎が聖岡に真言宗雲禅寺建立といい大永元年(1521)智瑞が開基となり浄土真宗圓福寺とした。

元和3年(1617)建部政長入封により聖岡から現在地に移転、「林田地図」に陣屋西門から西の突き当たりに圓福寺を記す。寛永14年(1637)木仏寺号、袴腰付鐘楼は享保年間(1716-36)建立、林田の名工という烏長兵衛作と伝える。

### ㉔ 薬師寺

西山浄土宗、医王山浄院薬師寺といい別格本山なみの院号という。寛文11年(1671)澄光開基、元禄年間(1688-1704)徳報中興という。林田川東岸の龍野藩領林谷村に位置したが、龍野・林田両藩から扶持があった。山門前に享保元年(1716)石燈籠一対、境内に薬師堂、芭蕉句碑、池田屋事件で倒れた尊攘派志士大高又次郎一族の墓などがある。

### ㉕ 因幡街道(姫路街道)渡場跡推定地

「林田地図」は札の辻から南西に姫路街道と阿蘇川(林田川)船渡しを記す。



播州林田之図(兵庫県立歴史博物館蔵)  
南ノ門(大手口)と構三木家・郷蔵  
画面右が北



済水寺山門



寶塔寺仮本堂



陣屋南口附近



圓福寺



薬師寺